

# 式次第

## 1. 贈呈式

「プラネッツルーム」11:30～12:00

### 開 会

- (1) 挨拶 理事長 鈴木 克久
- (2) 総評 選考委員長 高橋 裕

(3) 研究助成金決定通知書授与

理 事 長 鈴木 克久

- (4) 来賓挨拶 藤井 政人 様  
(国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所 事務所長)

(5) 研究助成金受領者 代表挨拶

学術研究 佐藤 大樹 様

一般研究 辻野五郎丸 様

## 2. 懇親会

「プラネッツルーム」12:00～13:00

- (1) 乾 杯 小堀 洋美 様  
(とうきゅう環境財団 選考委員)

\*会食・懇談\*

### 閉 会

## 新規 学術研究 助成金受領者



**佐藤 大樹** (サトウ ヒロキ)

国立研究開発法人森林総合研究所  
森林昆虫研究領域 昆虫生態研究室長

- 研究期間：2年
- 助成金額：2,000,000円

### 研究課題

多摩川上流域における落葉分解性水生不完全菌類の多様性とその落葉破砕食水生昆虫に対する意義の解明

河畔より河川に流入した落葉は、微生物および破砕食者と呼ばれる一群の水生昆虫により分解される。落葉は、特に水生不完全菌(糸状菌)による変成を受け、餌としての質が高められた後に昆虫の摂食により分解される。そこで、糸状菌が支える昆虫の多様性を解明したい。しかし、一水系に着目した糸状菌の多様性調査は殆ど未着手分野である。破砕食者では標高や河畔植生による分布の違い、餌となる落葉の樹種に対する嗜好性の違いが知られつつある。しかし、これらの違いに餌生産者として介在する糸状菌の多様性の影響については未解明である。本研究では、まず多摩川上流域において、標高や植生による糸状菌相の違いとそれらの温度、基質に対する成長特性の違いを明らかにする。続いて破砕食者の分布と糸状菌相との対応、および菌種の嗜好性を解明し、破砕食者の多様性に関わる糸状菌の多様性の意義を解明することを目的とする。



**佐藤 哲生** (サトウ テツオ)

千葉大学大学院医学研究院  
感染生体防御学 特任助教

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,990,200円

### 研究課題

多摩川河口域に飛来する野鳥の保護にむけた寄生虫感染状況の調査

野鳥に寄生虫が感染すると個体数が減少することが知られている。

野鳥には、回虫や住肉胞子虫、トリコモナス、ヘモプロテウス、ジアルジア、クリプトスポリジウム、コクシジウムといった寄生虫の感染例が多く報告されている。なかでもコクシジウム(主にEimeria属原虫)が鳥類に感染すると下痢を引き起こし、集団流行することで著しい数の

野鳥が死に至る。本邦に飛来するツルはコクシジウム症の感染により生息数を減少させていることが報告されており、野鳥保護の観点から重要な疾病と考えられる。コクシジウムは腸管に寄生し、侵入した上皮細胞内でいくつかの発育ステージを経ることでオーシストを形成する。オーシストは糞便と共に環境に放出され、数日間の期間を経て、新たな宿主への感染能をもつ成熟オーシストとなる。コクシジウムの成熟オーシストは乾燥以外の環境ストレスに強いことから、鳥類における水系の集団感染を引き起こす大きな感染源となる。また、ジアルジア及びクリプトスポリジウムはコクシジウムと同じ腸管寄生性原虫であるが、糞便と共に環境中に放出され人獣共通感染症を引き起こすため、公衆衛生上問題となる病原体である。

多摩川の河口付近には干潟が残り、豊かな生態系が形成されている。この干潟に飛来する野鳥は20,000羽を超え、その種もラムサール条約における個体数の1%以上と多様である。また、この中には絶滅・準絶滅危惧種に指定されている鳥類も多く含まれる。このことから多摩川河口域は国際的に見ても重要な野鳥が生息する湿地であるといえる。これまでに本干潟における野鳥の個体数の推移が調査され、その結果、生息数の減少が観察される野鳥種が存在することが明らかとなっている。そこで本申請研究の目的は、野鳥の生態と寄生虫感染状況の関連性を解明することである。本申請研究で得られる結果は、多摩川河口域の野鳥の保護及び環境保全につながる。



**小作 明則** (コサク アキノリ)

一般財団法人進化生物学研究所

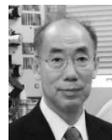
- 研究期間：2年
- 助成金額：1,090,000円

### 研究課題

多摩川中流域に残存する谷戸地形(都立農業高等学校附属神代農場)の生物多様性に関する研究と谷戸地を利用した環境教育

多摩川中流域、野川の水源となる国分寺崖線上に唯一残存する東京都立農業高等学校附属神代農場内の谷戸地形は周辺地域が宅地開発される中、江戸期以来の地形ならびに動植物相を現在も維持しているタイムカプセルのような存在である。一例としては昆虫ではゲンジボタルが生息し、植物ではカタクリの群落が維持されて

いることなどが挙げられる。これまで当農場谷戸地では、一時的かつ部分的な調査研究はあるものの土壌の解析まで含めた総合的な調査・研究はおこなわれていない。今回は既存資料も含め水、土壌、動植物についての基礎研究データの収集・解析ならびに調査の実施を試みる。これと平行して今後この市街地の中に唯一鳥状に取り残された貴重な地形ならびに生物環境をどのように保全維持すべきかを検証し、高等学校の環境教育の中で地域貢献も視野にいれ、実施する基礎研究に基づいた環境保全、環境教育ならびに地域貢献策を提示したい。この提示では大学、研究機関と高等学校教育との連携により、地域貢献も視野に入れたこれまでにない継続的な教育システムと実際の活動の実施(定期的シンポジウム開催など)提言の試みとなるよう考えている。



**真山 茂樹** (マヤマ シゲキ)

東京学芸大学教育学部 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,954,050円

### 研究課題

多摩川の河口干潟における珪藻の種多様性と群集ダイナミクスの解明

多摩川の殿町干潟は典型的な河口干潟である。河口干潟では海水の干満により、塩分濃度が大きく変動するうえ、流速や流れの方向も経時的に変化する。また、上流から流入する窒素やリンの量は珪藻の生育に影響を及ぼす。さらに、珪藻が付着する干潟の底質は淡水域から運ばれる粒子と、海から遡上する粒子の影響を受ける。加えて、干潟は干潮時には干出する場所であり、珪藻は定期的に乾燥や強光度にさらされる。このように環境条件が著しく変動する場所である。

珪藻は干潟環境における最大の生産者であるにもかかわらず、分類が難しいため種レベルでの研究はほとんど行われてこなかった。本調査試験研究では多摩川の河口干潟における珪藻種の多様性を明らかにすると共に、群集組成の変動と環境要因との関係を解明する。さらに、東京湾内の前浜干潟に生育する珪藻群集との比較を行い、河口干潟環境における珪藻群集の特性を明らかにする。

## 新規 一般研究 助成金受領者



**粕谷 和夫** (カサヤ カズオ)

八王子・日野カワセミ会 会長

- 研究期間：1年
- 助成金額：800,000円

### 研究課題

浅川流域における野鳥の長期間継続調査結果から見た動向及び環境変化との関連を考察する調査研究

八王子・日野カワセミ会は東京都の西部、八王子市と日野市を活動拠点とする地域限定の野鳥を観察する市民グループで、1985年に発足した。地域内には浅川流域及び多摩川、谷地川、程久保川、大栗川の各流域がある。

会の目的は野鳥観察を楽しむことを基本にし、地域内の野鳥の生息状況を調査記録すること、浅川流域等で野鳥が安心して棲める環境を作ることに協力することにある。このうち、野鳥の生息状況を調査して記録することが活動の柱になっている。この調査活動は、地域内に20コースを設けて月1回の野鳥の定期カウントを行うことが主体であるが、さらに夏鳥調査、冬鳥調査、カルガモ・ツバメ・イワツバメ等営巣調査、ツバメ・ハクセキレイ・ヒメアマツバメ等集団ねぐら調査等多岐にわたっている。

本調査研究では、以下の①～③について取り組むこととしている。①本会が30年間に積み重ねた各種調査の膨大な資料を取りまとめて記録として次世代に残すこと、②長期間の継続調査結果から見た野鳥の動向と環境変化との関連を考察すること、③野鳥の動向と環境変化の関係を明らかにして身近な環境の大切さを啓発すること。



**渡部 一二** (ワタベ カツジ)

水緑空間デザイン研究所 代表

- 研究期間：1年
- 助成金額：997,020円

### 研究課題

品川用水における水利施設遺構の残存状況調査

本調査・研究の対象としている「品川用水」は、玉川上水が流下する武蔵野市に設けられている分水口で受水し、武蔵野市、世田谷区、目黒区

を通り品川区内に通水する水利施設である。

品川用水は、細川藩別邸の池水確保のために創設され、1667年に農業用水として利用目的が変り、昭和20年代まで通水されてきたが、農地の宅地化が進み、農業用水の利用は終わる。

現在、水路網全区間で通水は止められ、水利施設の多くは道路用地等に転用されている。

筆者等は、この状態を放置できないと考え、武蔵野台地にめぐらされた分水路網の利用、復活の方途を提示する調査を1981年からはじめていた。

近年になって「玉川上水・分水網を世界遺産に」しようという活動がはじまり、一方では「東京循環都構想」の提言が公開され、江戸時代に形成された水路網の価値が見直される動向が進展している。玉川上水の分水である「品川用水」が、永年に亘り果してきた役割—水利空間で創出された「水の恩恵」を明らかにし、近未来に向けた活用の可能性を明らかにするのが、本調査・研究の目的である。



**井上 太志** (イノウエ フトシ)

自然観察活動チーム  
Wild Lives Watchers 代表

- 研究期間：2年
- 助成金額：91,190円

### 研究課題

多摩川中流域におけるカヤネズミ生息情報マップの作成と保全の提言

本調査研究では、多摩川中流域の特に河川草地帯におけるカヤネズミの生息分布状況を詳細に把握し、今後のカヤネズミの生息地保全の必要性を提言するための基礎情報資料の作成を主な目的とする。

本調査研究において対象とするカヤネズミは、1都2府28県で絶滅危惧種に指定されており、東京都レッドデータブックにおいても絶滅危惧Ⅰ類に指定されているほどに危機的状況に晒されている(東京都ではエリアによって絶滅とされている)。カヤネズミは日本最小の齧歯類であると同時に、高茎草地や休耕地など草地環境に生息し繁殖を行うという特殊な生態を持っているいわゆる「象徴種」である(草地環境を象徴する)。しかしこの草地環境は二次的な環境であり、開発等による改変の影響で消失する可能性が非常に高い。

調査対象地である多摩川では、1930年代以降の徹底した河川改修事業により中流以下の流域でカヤネズミの分布情報はほとんどが途絶えてしまった。今日でも、中流付近では多摩川モノレールの

橋脚の耐震補強工事、各種河川改修事業によりその生息地が消失の一途を辿っている(筆者の井上は2015年度のカヤネズミ調査で実際に生息地の一部が消失している状況に立ち会っている)。

本調査研究では、現在進行中の、あるいは今後発生する開発事業等に対し、カヤネズミの生息に留意すべき重要な生息エリアを指し示す「カヤネズミ生息情報図」を作成することで、開発等を実施するにあたり行うべき詳細な調査の手法検討と、綿密な保全対策の提言を行うことを最大の目的とする。

\*\*\*\*\*

	<b>西田 一也</b> (ニシダ カズヤ) 東京農工大学農学部・農学部 非常勤講師
	●研究期間：2年 ●助成金額：772,170円

研究課題	生き物の生息に配慮して改修した農業水路の市民参加型モニタリング調査
------	-----------------------------------

かつて江戸・東京の穀倉地帯であった多摩地域は、戦後、都市化が進行し、著しく農地が減少してきました。しかし、多摩地域には小規模でありながら未整備の水田地帯が残存しており、農業水路にはドジョウ、フナ属、トウキョウダルマガエルなどの水田地帯に特有の生物が生息しています。本研究では多摩市が実施する「市民協働による川の生き物調査」を活用して、同市内を流れる一ノ宮用水の生物の生息に配慮して改修された区間において、市民参加により生き物と水路環境のモニタリング調査を実施することで、生物の生息に配慮した改修工法に関する知見の蓄積に寄与します。また、多摩川本流に比べると十分ではなかった、多摩川流域に残存する水田地帯の生物・生態系への市民の理解・関心を深める機会を提供するとともに、生物モニタリング調査技術を提供することで、市民が自律的に生物モニタリング調査を実施できる足掛かりとします。

	<b>神谷 博</b> (カミヤ ヒロシ) みずとみどり研究会
	●研究期間：1年 ●助成金額：818,000円

研究課題	「野川湧水回廊」の価値づけと地下水保全のための調査研究
------	-----------------------------

野川で1973年に市民によって始まった湧水調査は10年継続され、その後東京都に引き継がれ、各自治体でも取り組まれた。これにより湧水保全価値が社会化され、官民が連携した保全努力のおかげで湧水と崖線緑地の保全が進んだ。しかし、現在でも開発リスクが残っている一方で、流域を通じた継続的な湧水調査は途絶えている。そこで、現況における湧水保全研究の情報整理を行い、湧水と水みちの保全リスクを評価し、あらためて市民による流域を通じた湧水調査を行う。市民調査によって始まった野川の湧水保全活動は、野川に関わる市民活動の質を市民科学として高めてきた。そのノウハウを継承するとともに、生活に根差した文化的な存在意義のある湧水の価値をあらためて共有化するため、シンポジウムや解説パンフの作成、わかりやすく表現した「湧水回廊絵図」を作成する。水循環基本法の成立やグリーンインフラが国土形成計画に盛り込まれるに至った今日、新しい時代を見据えて次世代に繋ぐ機会としたい。

	<b>重昆 達也</b> (カサヒ タツヤ) 東京コウモリ研究会 代表
	●研究期間：2年 ●助成金額：560,000円

研究課題	「環境省レッドデータブック2014」の絶滅危惧Ⅱ類モリアブラコウモリは多摩川流域にいつ、どこに棲んでいるのか？
------	---

我が国には約110種の陸生哺乳類が生息するが、このうち37種がコウモリ類であることは残念ながらほとんど知られていない。東京都(島嶼を除く)では明治以降12種のコウモリ類が記録されているが、「東京都版レッドデータブック2013」ではこのうち9種もが保護上重要な哺乳類として評価されている。東京コウモリ研究会では1999年よりコウモリ類の研究を始め、奥多摩山地において11種のコウモリ類を確認しているが、なかでも絶滅に対する評価ランクが高いのがモリアブラコウモリである。本種は自然度の高い森林にのみ

生息すると考えられていたが、当グループの研究により、ある季節には山麓部にも出現すること、スギ・ヒノキ植林のような人工林も利用することが明らかになり、従来考えられているよりもより複雑な生態を持っていることが予想されている。しかし、奥多摩山地における記録は局地的であり、その全体像を捉えるには程遠い状態であることから、本種を捕らえることを優先しながら、コウモリ類の基礎分布調査を継続していく予定である。

\*\*\*\*\*

	<b>辻野 五郎丸</b> (ツジノ ゴロウマル) 玉川上水域研究会 代表
	●研究期間：1年 ●助成金額：1,000,000円

研究課題	玉川上水・分水網の構成と関連遺構に関する調査(その2)
------	-----------------------------

玉川上水は、多摩川から羽村で取水し四谷大木戸・皇居までの約43kmの幹川と八本の用水、三本の上水(江戸上水図 正徳末頃)さらに細かく分かれた分水網から構成されている。この“水のネットワーク”は、江戸・東京の発展に大きく寄与してきた。その影響は、江戸・東京市街地への上水供給にとどまらず、台地の農業と集落の形成さらに、低地の水田への養水となるなど武蔵野全体の自然歴史文化の形成に深くかかわってきたと言われている。

持続可能な東京の将来の都市像を模索するとき、玉川上水が自然の位置エネルギーだけで育んできた自然、歴史・文化環境を守り、活用することはきわめて重要な課題になると考えられる。このため本研究では、玉川上水のみならずその分水網もふくめ、玉川上水全体の水ネットワークの現状と残された遺構、関連する自然、歴史文化資源を調査し市民、関係行政機関との情報の共有化を促す。さらに、この調査に基づき市民、関係行政機関と意見交換を図りながら、玉川上水と分水網の一元的な水系・緑地網の保全活用方策を提案し保全・再生を促すとともに、適正な維持管理と運営に寄与することを目的とする。

## 継続 学術研究 助成金受領者

◆ <b>堀田こずえ</b> (ホッタ コズエ) 東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻獣医公衆衛生学教室 助教 ●助成金額：1,268,000円
---

研究課題	多摩川流域におけるダニの生息分布調査およびダニ媒介性人獣共通感染症調査
------	-------------------------------------

◆ <b>小池 裕也</b> (コイケ ユウヤ) 明治大学理工学部 専任講師 ●助成金額：2,000,000円
---

研究課題	多摩川集水域における底質中の放射能セシウムの30年後を見据えた挙動解析
------	-------------------------------------

◆ <b>溝口 康</b> (ミゾグチ ヤスシ) 明治大学農学部 准教授 ●助成金額：2,000,000円
---

研究課題	多摩川上流域に生息するニホンジカの遺伝構造・遺伝的多様性の評価
------	---------------------------------

◆ <b>吉岡 拓</b> (ヨシオカ タク) 恵泉女学園大学人文学部 特任助教 ●助成金額：144,250円
---

研究課題	近代多摩川と皇室——鮎献上と多摩地域の聖蹟化に関する歴史学的研究
------	----------------------------------

◆ <b>愛知 正温</b> (アイチ マサアツ) 東京大学大学院新領域創成科学研究科 講師 ●助成金額：1,500,000円
---

研究課題	多摩川下流低地における地下水環境と地盤沈下・隆起の変遷
------	-----------------------------

◆ <b>和田美貴代</b> (ワダ ミキヨ) 熊本大学薬学部機能性食品共同研究講座 ●助成金額：153,630円
---

研究課題	多摩川中流部における樹林伐根跡地の植生変化と立地との関係
------	------------------------------

◆ <b>春田 伸</b> (ハルタ シン) 首都大学東京理工学研究科 准教授 ●助成金額：2,000,000円
--

研究課題	多摩川上流域の生態系を育む河床藻類を支える窒素固定細菌の多様性と役割
------	------------------------------------

## 継続 一般研究 助成金受領者

◆ <b>清宮 祥子</b> (セイミヤ ショウコ) 特定非営利活動法人R.I.La 理事長 ●助成金額：491,800円
---

研究課題	多摩川中流域並びにその支流における放射能の土壌汚染と生体に対する影響について
------	--

◆ <b>田畑 伊織</b> (タバタ イオリ) かもしかの会 代表 ●助成金額：142,000円
---

研究課題	御岳山地域ニホンジカ生息調査—絶滅危惧種レンゲショウマの群生地を守るために—
------	--

◆ <b>山口 孝</b> (ヤマグチ タカシ) 多摩クマタカ生態調査チーム 代表 ●助成金額：143,200円
--

研究課題	多摩川流域山地の伐採跡地を利用する鳥類に関する研究
------	---------------------------

## 選考委員会メンバー紹介

	<b>選考委員長</b> <b>高橋 裕</b> 東京大学 名誉教授 専攻 河川工学
---	---

	<b>奥山 文弥</b> 東京海洋大学 客員教授 専攻 魚類学・環境教育
---	--

	<b>小堀 洋美</b> 東京都市大学 特別教授 農学博士 専攻 保全生物学
---	---

	<b>小宮 輝之</b> 上野動物園 元園長
---	---------------------------

	<b>齋藤 潮</b> 東京工業大学大学院 教授 専攻 景観原論 計画・設計論
---	---

	<b>新藤 静夫</b> 千葉大学 名誉教授 専攻 地質学・鉱物学
--	---

	<b>鈴木 信夫</b> 昭和女子大学 客員教授 医学博士 専攻 環境影響生化学
---	---

	<b>田畑 貞寿</b> 千葉大学 名誉教授 (公財)日本自然保護協会 顧問 専攻 造園学・環境計画学
---	--

	<b>土屋 十圀</b> 前橋工科大学 名誉教授 専攻 土工学・河川工学
---	--

	<b>寺西 俊一</b> 帝京大学経済学部教授 一橋大学 名誉教授 専攻 経済学・環境経済学
---	---

\*\*\*\*\*

# 平成28年度 研究助成金贈呈式

日時 平成28年7月14日(木)

会場 渋谷エクセルホテル東急

公益財団法人とうきゅう環境財団  
TOKYU FOUNDATION for BETTER ENVIRONMENT